

## 2023年度 自己評価結果

社会福祉法人孝愛会 那加保育園

### 1. 那加保育園の保育

#### ◎保育理念

児童福祉法の精神に基づき、『子ども達の最善の利益』を保証するために保護者や地域との連携を基に、子どもの人権と主体性を尊重し、生き生きとした保育者の豊かな人間性の陶冶と専門的な知識の向上に努め子育て支援を積極的に行う。

#### ◎保育目標

- ・保育目標： すこやか、ほがらか、おもいやり
- ・養護の目標： 生命の保持と情緒の安定を図る
- ・教育の目標： 友だちと仲よく意欲的に遊べる子、学べる子

#### ◎保育方針

子どもの持続的で健全な心身の発達を図るために保育関係者自身の豊かな人間性の陶冶と絶え間ない資質の向上を基に保護者や地域及び関係機関と協調しながら主体性を持って計画的、継続的、意図的に保育を展開する。

### 2. 本年度の重点事業の取組結果

#### ① 保育の質の向上

各務原市が実施する保育士研修会における全体研修、保育士等キャリアアップ研修の受講、公開保育の実施・参観を通じて、保育者の保育の質の向上を図りました。公開保育等の園内研修では保育者が自身の保育実践を語り他者の保育実践に耳を傾ける対話的な研修とすることで、より効果的な研修として、園全体の保育の質の向上を目指しました。また、配慮の必要な子の保育では、外部講師による定期的な指導を受けることで、保育者が適切な対応ができるようにスキルの向上を図りました。

また、法人全体で、テーマ：「不適切保育について」で研修を行う中で、園内では事前に「不適切保育についての事案アンケート」を実施して保育者自身が保育を振り返って、不適切な保育がなかったか点検するとともに、事案毎に適切な対応についてグループ議論を行って、保育者個人の保育の改善に繋げるとともに、園全体の保育の質の向上を図りました。

#### ② 運動遊びを通して子どもの動きの多様化、コミュニケーション向上を目指した保育の推進

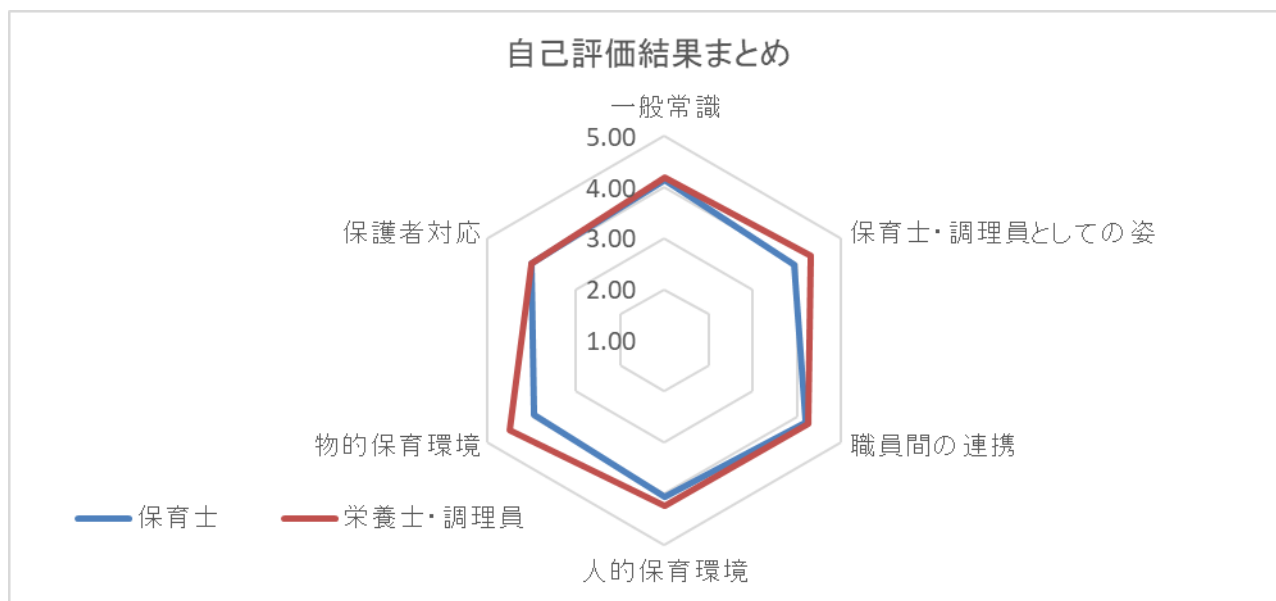
本年度「運動遊びを通して動きの多様化と思いやりの心の育成をもとめて」を研究主題として研究に取り組みました。取組を開始して本年度で3年目を迎えましたが、過去2年間は、多様な運動を経験することや、集団遊びの中でのルールを守り、社会性や協調性が身につけられるように取り組みました。本年度は、さらに運動機能の向上だけでなく、人間関係やコミュニケーション能力が培われるよう保育士が設定した環境の中での運動遊びだけでなく、子ども達が主体にルールを守って集団遊びができるようにその手段の一つとして「わらべうた」を使った集団遊びに取り組みました。その結果、保育者が主導しなくても、子ども達が主体になって、今まで遊んできたわらべうた遊びに取組めるようになるだけでなく、子ども達だけで新しいルールを設定してわらべうた遊びを行うようになり、運動機能だけでなく、コミュニケーション能力を向上させることができ、自主性も培うことができました。

#### ③ 子ども達の遊びへの意欲を高める園庭と室内環境の整備

本年度は、3歳未満児が園庭で意欲的に遊べるように環境整備を進めました。3歳未満児が遊べる遊具を設置されているエリアへ遊具を追加設置するとともに、そのエリアへ園児が安全かつ円滑に移動できるように、保育室前のテラスにゴムチップ施工を行いました。

### 3. 評価項目の達成状況

2023年度末に職員（保育士・栄養士・調理員）に自己評価を実施して、その結果をグラフにまとめました。その結果をもとに、園運営や保育活動の総括と来年度以降の改善に向けての課題をまとめました。



#### ● 本年度総括と来年度以降の課題

##### ① 保育の内容

園児が安全にすごせるように配慮して物的及び人的環境整備できました。また、子どもの“伝えたい気持ち”をくみとって、対応することに心掛けることで、園児が安心して、楽しくすごせるように配慮できました。

一方で、子どもの憧れや思いやりの心を育む、異年齢の関わりが持てる機会や、自然や季節を感じるができる機会を十分に設定していくことが来年度以降の課題として抽出されました。

##### ② 保護者への対応

保護者に積極的に挨拶をするとともに、安心と信頼を得ることを意識して、コミュニケーションをとるよう心掛けることができました。

一方で、保護者と相談をしていく中で子育て支援や保護者支援を行い、課題解決を図っていくことが来年度以降の課題として抽出された。